

だれもが人間として生きていくうえで
侵すことのできない当然の権利
これが「人権」です



差別のない町をつくろう

第16回

「5・23差別をなくす」

山都地区集会



「どろんことたいよう」を合唱する参加者

5月21日、矢部中学校体育館で第16回「5・23差別をなくす山都地区集会」が開催されました。約700人の参加者がありました。本集会は部落差別をはじめ、いじめや仲間はずしなどのあらゆる差別をなくしていくことを目的に、子どもたちが主体となりながら、大人も共に学び合う場です。

開会前のオープニングを務めたのは、矢部太鼓（やきようだいこ）。児童館での日ごろの練習の成果を、力強いパチパチで披露しました。

同和保育園の園児、先生、保護者は、「どろんことたいよう」「つばめになつて」「さんぽ」を、爽やかに合唱しました。

矢部同研サークルは問題提起として、二人の小学生の作文を紹介。一点は、病気に負けず、駅伝大会で沿道の声援を受けながら立ち止まらずに完走したこと。もう一点は、ばあちゃん病気だけ一日一日を生き生きと過ごしていかつたことと感じたこと。作文登壇者の立ち向かう姿勢とそこに共感する感性に、参加者は元気をもらいました。

次に、子どもたちの決意表明がありました。解放子ども会小学部は、同和保育園での体験を通じて感じたことを発表。大きな虹の絵を友だちと書いたこと、牛

のウンチに触つてみたら暖かくてふかふかしていたことなどを情感豊かに話し、「こんなに楽しい同和保育園をずっと残して欲しい」と、訴えました。

解放子ども会中学部は、差別は差別する側の問題と指摘。「自分の生まれたところを悪く言われたら誰でも腹が立つ。正しく学ぶことが大事」「差別心を持つて生まれてくる赤ちゃんはいない。誰かに教えられて差別するようになる」などと、問題点を明らかにしました。

矢部中学校の生徒のみなさんは、「同情ではなく、相手の目線に立つことが差別をなくす第一歩」など、リボン登校（※注1）に込めた思いを語りました。

御岳小学校を今春卒業した矢部中1年生は、「来民（くたみ）開拓団（※注2）」の悲劇を報告。「部落差別が来民の人の命を奪った」「戦争は夢や希望を奪ってしまう」「平和を守るために本当のことをしっかりと勉強していきたい」と、伝えました。

発表を聞いて、たくさんの子も達前に出て感想を述べました。「日本から差別をなくしたい」などの意欲あふれる感想に、会場はさらに元気づけられました。

大人の決意表明では、「差別は差別する側の問題。人間が作った差別は人間の力によって解決出来ると信じています」と、力強く訴えました。

最後に、「子どもたちの姿とおして、部落問題と自分とのかかわりに気づき、解放に向けた行動へ高めていこう」などと記した集会宣言を採択。併せて、「人

権条例」を有効あるものにしよう」など5項目のスローガンを採択。

締めくくりに、差別をなくす思いを胸に、「どろんことたいよう」と「そんなまちを」を参加者全員で合唱しました。

一般参加者を対象にした、初のアンケート調査には、「発表を聞き、正しく学ぶことで正しい認識・人権感覚が身につくと思いました。私達大人は子どもに教える前に、まず、自分自身はどうか再度見つめ直す必要があります」「真っ白な心の子も達に、差別心を植え付けるのは周囲の大人だと思う。もっと多くの大人の方に参加して欲しい」など多数の感想が寄せられました。

（※注1）リボン登校とは、「差別をなくそう」と書いたリボンを胸に付けて登校することです。（※注2）来民開拓団とは、熊本県内のある被差別部落の住民によって組織された、満州開拓団の一つです。日本の第二次大戦敗戦時に、日本の軍や警察から見捨てられ、地元民の襲撃を受けて集団自決しました。276名中生き残ったのは1名だけでした。

■11年ぶりの上益城大会■

部落差別をはじめあらゆる差別をなくす

第40回

熊本県人権教育研究大会

2011年10月15日（土）～16日（日）

●15日（土）…益城町総合体育館（全体会）

●16日（日）…郡内の18会場（分科会）

季節のうた

▼やまなみの会

ぜんまいをもめばもむ程つやが出る
黒々と輝きたまひ甘茶仏

うららかや案内板のかたむきて
寿の文字入り湯呑みを持ち来たる息子の思ひ

ひしと身にしむ
友が逝きうらから逝きし如月ぞ右往左往して

過ぎてゆきたり
それぞれに父親のコート形見にと羽織りて子等は

笑顔で帰る
山下 弘子

通潤句会
今村 芳子

今年また思い出を着る更衣
荒梅雨や森の巨人といふ古杉

清和短歌会
中村 暢子

誕生日百日若い友は逝く癌とたたかい強く生きしに
牧草を刈り取り巻いて与えれば牛も喜ぶ若葉の香り

山菜はタラの芽なりと鎌かつぎ酒呑み翁は山に入り行き
坂本 英博

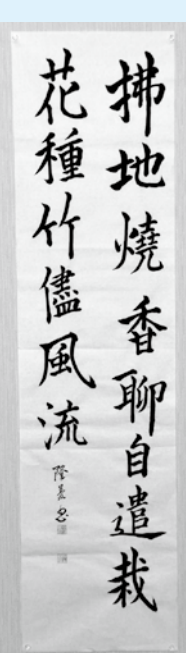
馬見原酔山会
産声待つ長さかな若葉風

春山に吸い込まれ行く登山客
大西久美子

牡丹のひと片散るに遭ひしこと
渡辺 勝子

高田ゆかり

書道



和光教室書道部の小崎孝行さん（菅尾）作

7月の当番医

7月3日 伴 病院（電話72-0029）
7月10日 野 田 医院（電話72-0307）
7月17日 矢部広域病院（電話72-1121）
7月24日 瀬 戸 病院（電話75-0111）
7月31日 蘇 陽 病院（電話83-1122）

山都町の人口

〔平成23年5月31日現在〕

男 8,660人（-12）
女 9,275人（-3）
計 17,935人（-15）
世帯 6,755戸（+4）

※（ ）は前月比

※最高齢は105歳〔女性1人〕

※1月1日～5月31日の出生届数
46人（うち5月は9人）

※1月1日～5月31日の死亡届数
122人（うち5月は22人）

熊本県では、7月と8月を「愛の血液助け合い運動」期間として、広く県民の皆さんに献血の呼びかけを行っています。夏場は長期の休みや暑さにより、献血者が減少することが心配されています。特に若い人達で、献血をしたことがない方は、是非御協力をお願いします。

みんなで、献血の輪を広げようよ

7月～8月は「愛の血液助け合い運動」の期間です。
400mL献血・成分献血にご協力ください。



期間中、山都町では
8月18日、22日に
献血を実施します。

編集後記

便利で快適な生活を支え続けてきた電気。家庭を見渡せば、ほとんどが電気無しには動かないものばかり。家庭での電力使用量はこの40年で2.5倍になったそうです。便利さや快適さは2.5倍以上になっていますが、その快適さの元はどのように作り出されているか、どうしても考えてしまいます。

ホテルの舞う季節です。今は梅雨ですが、この町は星もきれいに见ることができます。夜は電気を消して、ホテルや星を眺めてみるのも、節電の方法の一つです。